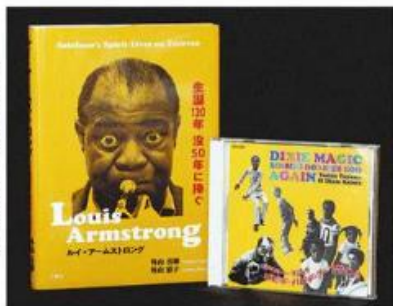


# サッチモ音楽



サッチモ生誕120年、没50年を記念した本とCD

サッチモの愛称で親しまれた「ジャズ王」ルイ・アームストロング(一九〇一年)は今年、米南部ニューオーリンズに生まれて百二十年、没後五十年を迎えた。日本ルイ・アームストロング協会を主宰し、バンド「デキシシーセンツ」を率いる外山喜雄・恵子夫妻は生誕月の八月、サッチモに捧げる解説本とCDを発売した。

## サッチモ生誕120年に捧ぐ

外山喜雄・恵子夫妻  
解説本とCD発売



サッチモの生誕記念ライブでトランペットを吹く外山喜雄とパンジョーを弾く恵子=東京・丸の内内のコットンクラブで

い、結婚。一九六八年からジャズの聖地ニューオーリンズで学んだ。七三年にバンドを結成し、恵子はピアノとパンジョーを弾く。トランペットと歌でサッチモの代表曲「ハロー・ドーリー」などを披露した喜雄(左)は「夫婦でサッチモ五十四年」(右)は「夫婦でサッチモ五十四年」。「ルイはスイングすることを教えてくれた」。演奏の合間に感謝の言葉を語り続けた。

六四年の来日京都公演で、学生の喜雄は楽屋を探し当てる。「中にどうぞ」とサッチモ。トランペットがあり「見てもいい？」と頼み、笑顔の前で承諾なしに吹いてしまった。「若気の至り」と言う喜雄に、外で待っていた恵子は「悔やまれます」。一方、CD「デキシシー・マジック ビビディ・パビディ・プーAGA IN」は、ジャズバンド「パリーバンド」などとして東京ディズニランドで二十三年間演奏した曲を収録した。夫妻は「ウォルト・ディズニも生誕百二十年。アメリカ文化を代表する一人の巨人に私たちのジャズ人生を捧げることができた」と話している。(野呂法夫)

産経新聞 京都新聞  
愛媛新聞 福井新聞  
信濃毎日新聞 他  
共同通信配信ニュース

長3 総合 2021年(令和3年)10月17日 日曜日



サッチモの愛称で知られるジャズの王様ルイ・アームストロングの音楽を半世紀にわたって演奏し続けてきた。そんなミニミュージシャン夫婦が共著「ルイ・アームストロング 生誕120年没後50年に捧ぐ」を出版した。「コロナ禍が続く今こそ、不遇に負けず人生の素晴らしさを唱えた精神に触れてほしい」と話す。

### 時の顔

サッチモの魅力を伝え続ける音楽家夫婦

外山喜雄さん・恵子さん

「サッチモの魅力を伝え続ける音楽家夫婦」の著者である外山喜雄さんと恵子さんのインタビュー。喜雄さんは、ジャズミュージシャンの映像資料を現地の博物館に寄贈した。恵子さんは、ジャズミュージシャンの映像資料を現地の博物館に寄贈した。喜雄さんは、ジャズミュージシャンの映像資料を現地の博物館に寄贈した。恵子さんは、ジャズミュージシャンの映像資料を現地の博物館に寄贈した。